

明治三十年

(二月)

一月一日 己未 金曜 晴。

朝五時起。挙家打過、**雑煎**を祝ふ。是より先神前裝飾、祭典。天神地神を拝し、畢而、余、生徒等引連、氷川神社に参詣す。この途路、天晴朗にして暖気汗ばむ位也。追々賀客を迎え、賑々敷事也。歳首之名刺百枚、端書百枚余郵送ス。

一柳菊より鶏卵一箱。

*雑煎(雑煮)

一月二日 庚申 土曜 晴、風。

朝六時起。祭典執行。畢而**雑煎**を祝ふ。皆如昨日。

*雑煎(雑煮)

一月三日 辛酉 日曜 晴。

朝六時起。祭典執行ス。午下、北白川宮邸ニ詣し、富君様御始、御上御一統葉山え御旅行ニ付、吉野、稲子と面会、御霊前え参拝ス。御祝酒を戴て去ル。閑院宮邸に詣ス。君様御側ニテ御祝酒を戴て帰。それより三条邸二行、資君様に御祝義申上、御祝酒を戴て帰。市中殊の外賑々しき景気也。来客、倉持長子。

閑院様より延命袋、外ニ御品々。三条様より**八丈島**一反。倉持長子より鶏卵、鴨一籠。

弘方摘要 車夫え**祝義**、壱円。

*祝義(祝儀) *八丈島(八丈縞) *祝義(祝儀)

一月四日 壬戌 月曜 晴。

朝六時起。明日之準備多忙也。来客、佐藤朝江、降旗元太郎。

弘方摘要 雪駄代、二円。

一月五日 癸亥 火曜 入寒。晴。

朝六時起。牛天神ニ参詣して帰。新年会執行ス、午後一時より。来会者百人余、随従者五十人余也。余輿、落語を演ず、四席。畢而福引する。畢而茶菓を饗す。四時全畢。生徒各々帰り去。夕景より内の新年宴会を催ス。井深夫婦、重威夫婦、其外廿一人の客也。先盃を廻らし、追々歌舞、茶番等有て、頗ル賑々しく、九時畢。

到来物実ニ夥しく、記するにいとまあらず。依而はぶきぬ。

一月六日 甲子 水曜 朝雨、已而晴。六十二度。
朝六時起。白山神社に参詣して帰。宮城及青山御所へ御年玉を献上す。降旗元太郎、其妻今子、片岡君子。

一月七日 乙丑 木曜 雨。

朝六時起。牛天神に参詣して帰。入塾、山崎今子、武井悦、作、二人。余、午下宮城御内儀に参る。良子様御局にて御祝酒及料理を賜はる。撫子内侍殿教授す。畢而四時後帰る。塾生続々帰来ル。

受方摘要 渡辺増子、五円。園頼子、五百疋。良子様、五百疋。藪兼様、五百疋。塩原氏、三円。

払方摘要 岩崎銀行え預ヶ金、貳百円。

一月八日 丙寅 金曜 晴。

朝六時起。氷川神社ニ参詣して帰。生徒教授ス。来客、多久康、森永琴。

一月九日 丁卯 土曜 朝雨、已而雪ますく強く、夕方にてハ一寸位もふり積たり。

朝六時起。課業如例。

一月十日 戊辰 日曜 晴。

朝六時起。牛天神ニ参詣して帰。午前十一時頃より小松宮邸ニ詣ス。此時の御咄しに、**皇大皇后宮**ニは御違例さまにて、よほと御大患のよし承り、安き心もなき事也。已而去。田村氏ニ行、午餐を饗せらる。一時頃去テ徳川氏ニ行、御稽古始をなして帰。

*皇大皇后宮(皇太后宮)

一月十一日 己巳 月曜 晴、午下陰。

朝六時起。白山神社ニ参詣して帰。課業如例。来客、石山須磨子、晨子。此夕、佐野氏より使来、西斎藤甲平危篤のよしにて、常子直ニ帰。

中山安子より柚練一罐着。

受方摘要 森永辰江より五百疋。

一月十二日 庚午 火曜 陰。朝より雨雪をましへて、いともかなしけなる空にてはある。

朝六時起。牛天神え参詣の道すから、雨にて**引帰して**、課業如例。午下、佐野氏を尋ね候処、もはや昨夕火葬にして、今朝帰国せられたるよし。何共く残念之至、惨然限りなし。

直ニ帰。此日号外ニテ、

皇太后陛下の崩御御発表。時十一日午後六時、御崩御あらせらる。実に嘆きても尚かきりなし。

午後四時より紅葉館ニ会ス。皇大皇后宮御大患ニ付、御見合せニ相成候。東京府知事より令達、本日より五日間休業。

岐阜青木氏より糟一箱着。海岐羽織裏地、帶上ケ、半氈共、青木氏え贈ル。毛利式子、蒸菓子二箱。

受方摘要 上杉重子、一円。

*引帰して(引返して) *皇大皇后宮(皇太后宮) *海岐羽織(海氣羽織) *半氈(半襟)

一月十三日 辛未 水曜 晴。

朝六時起。白山神社ニ参詣して帰。午下早々青山御所ニ参る。浜荻典侍局ニテ哀悼申上ル。大后宮御違例様よりの御事共同奉る。八日より御発病にて、十一日午後六時雲かくれさせ給ふよし、わつか四日間にて、かゝる御事に成らせ給ふはいかなるいたまし御事やと、みなくなけきのうち沈み居たり。御臨終様も御たしかにて、九条数子さまと御咄しの上にて、其まゝに崩御あらせられたる御様子伺奉りぬ。余ハ四時比下りぬ。

小泉氏、蒸菓子一箱。杉浦氏、半紙十帖。稲垣氏、カステラー一箱。井上久可、カステラー大箱。

受方摘要 松島浜江、三円。斎藤佐野より十円。内田氏、一円。

*わつか(纒か) *いたまし(傷まし)

一月十四日 壬申 木曜 雨。

朝六時起。昨夜の雪にて積る事一尺、世界一変して、天地共に喪をきたるが如し。庭の杉の木立ハ尽く弓の如く地にふし、或ハ雪折れ、所々の電柱、電話柱たをれたるよし也。

江副氏、きすけ煮三罐。

*たをれ(倒れ) *きすけ煮(儀助煮)

一月十五日 癸酉 金曜 雨午後やみぬ。夜大風吹きすさぶ。

朝六時起。雨降ていまた雪深くて、墓参もし侍らす。父の明日にて祭典執行す。終日揮毫す。来客、重たけ。

受方摘要 潤筆、壹円。

*し侍らす(為侍らす) *明日(命日) *重たけ(重威)

一月十六日 甲戌 土曜 晴。

朝六時起。食事後、牛天神ニ参詣す。社内のひばの木四本ともにたをれ、其外梅の樹などもき折たるもあり。それより姉邸を問ふ。暫時にして帰宅ス。門毎ニ喪の国旗をかゝく。

文部大臣より令達ニテ、公私学校生徒ハ、帽、或ハ左の袖ニ紗の切をまとふ、女生徒ハ髪の飾ヲ癩し、なるへく質そにとの事也。小包郵便ニテ、木津唯専寺え白羽二重襦半地、半

襟二懸ヲ贈ル。夜地震、随分長し。明かた又震。

木津唯専寺より氷豆腐、**奈ら漬**小桶、**きうひ昆布**。新樹典侍より御文庫、袖きれ、紙さし。受方摘要 新樹典侍より五百疋。紅梅典侍より千疋。

*たをれ(倒れ) *もき折たる(挽ぎ折たる) *癩し(癩し) *質そ(質素) *
襦半(襦袢) *奈ら漬(奈良漬) *きうひ昆布(求肥昆布)

一月十七日 乙亥 日曜 雨又陰。

朝六時起。祭祀執行す。終日揮毫ス。來客、永野辰子伯父堀田氏、重威。

堀田氏より海苔十帖入。千家より、鶏卵一箱、**花色ちゝぶ**一反、桃子えきし縞一反。佐の常子より、みかん一箱。

*花色ちゝぶ(花色秩父) *きし縞(岸縞) *佐の常子(佐野常子)

一月十八日 丙子 月曜 雨時々切にして、雷鳴或ハ風吹きすさふ。天も**いたまし**の御事

やと、この空のけしきたゝならぬにや。

朝六時起。雨中白山神社ニ参詣して帰ル。本日より授業如例。

*切(しきり) *いたまし(傷まし)

一月十九日 丁丑 火曜 雪又ハ**あられ**、午下晴。

朝六時起。雪を冒して**近方**運動して帰。また**あられ**ふり出て積る。課業如例。寄書、藤袴内侍。

大橋氏より鶏卵一箱。

*あられ(霰) *近方(近傍) *あられ(霰)

一月二十日 戊寅 水曜

朝六時起。余、愛治郎、千久子と例の如く朝飯を済し、余ハ塾二行。八時頃、千久子手に**しひれ**を覚え、**わか手**にあらん様にてをかきとて笑ひ、便所に行かんとして少し足もとたゝならず。女中二人して便所えつれ行、其内床を敷かせ、やかて寝かせたるまゝ一言の答えもなく、皆々打寄、呼へと叫へと其甲斐なく、只々安眠のみ。医師も直ニ来り、水もて頭をひやし、からし或ハ塩湯にて足部ヲあたゝめ、**中斜**度々いたしても不応、藤袴内侍さまを願ひ、早々池田侍医及櫻村国手、和田、追々来診いたし候処、脳出血にて回復ハ**覚束**なひ、然しなから年の若きと、酒、煙草を用ひさる故、万が一、分利も付候半やと、手のとゝくかきり尽したれと、其効なく、二十日もくれ、(翌日へ続く)

*しひれ(痺れ) *わか手(我が手) *中斜(注射) *覚束なひ(覚束ない)

一月廿一日 己卯 木曜 晴。

廿一日夜十時頃、もはや落命とて、なくく**まつご**の水を手向、上より下女、下男にいたる迄、暇乞して後、又脈度も慥ニ相成、回復の事と大めに悦居りぬ。夜十二時後、美濃よ

り遠藤義為来、又一時頃、宮原六之介来、此前、姉小路伯も沖津より来。残る方なく人々打寄、暇乞もし畢りぬ。

*まつこ(末期) *沖津(興津)

一月廿二日 庚辰 金曜 晴。

この朝七時、楽々と眠なからみまかりぬ。実に残念言ふべくもあらず。涙のかきり泣涕不止、断腸とハ此事なりと、始てさとりぬ。所々え訃音を通す。追々悔みの客来、雑沓不可言。このなきからを奇麗叮嚀に清めて、白むくと着替させ、枕をなをし、座敷えつれ行ぬ。新聞ハ、日本、時事、読売、東京日々、都ノ五新聞ニ広告ス。午後より悔みの人々引もきらず、夜ときの人々も大勢にて、上を下えの雑沓ひと方ならず。

*みまかりぬ(身罷ぬ) *なきから(亡骸) *なをし(直し) *夜とき(夜伽)

一月廿三日 辛巳 土曜 晴。

学校ハ廿二日より一周間の休業す。夜るひるの分ちなく、弔電、弔詞、或は悔みの客ニテ、応接にくるしむくらぬ也。葬式の準備、或ハ衣服のこしらへにて、此日も困雑のうちにくらしつ。夜食は奥のみにて 三十人前余也。

*一周間(一週間) *ひる(昼) *こしらへ(拵へ) *困雑(混雑)

一月廿四日 壬午 日曜 晴。

朝より来客ニ接して、多忙限りなし。午下、千家尊光、及祭官、伶人来、入棺式執行ス。明日之準備稍齊ひ、皆々徹夜す。此日記、委細ニ書くへきに、何分事繁くて記する間もなく、程経てかきたれば、大概のみ。

一月廿五日 癸未 月曜 晴朗。

本日午後一時、出棺。斎主千家尊光、祭官六人、伶人五人。霊移之式アリ。午前より会葬者来集す。一時、愈出棺。其行列之盛なる、実に見るへきもの也。喪主、泰。余等及子供等、皆馬車ニテ送ル。生徒等之行装奇麗也。伝通院本堂ニテ式アリ。同院の僧侶十六人読経ス。会葬者参拝畢ル。五百人余の会葬者也。続而光円寺中に葬ル。五時過也。先々無滞埋葬相済、帰而祭典アリ。式全畢。此夕、木津法城、大坂より着す。

一月廿六日 甲申 火曜 晴。

朝六時超、一同墓参す。已而帰。

(一月廿七日、廿九日、記載ナシ)

一月三十日 戊子 土曜 孝明天皇御三十年御祭日。晴。

朝六時起。墓参ス。

一月三十一日 己丑 日曜 晴、此夜より雨降出ル。
朝六時起。千久子十日祭執行ス。午前十時、神前装飾、重威祭主。子供等神饌ヲ供す。会者、原富太郎、同安子、良三郎、石井初子、外廿二人也。祭典畢而、皆々墓参して帰。昼餐ヲ饗す。頗る賑々敷事也。横浜の客ハ四時帰。

(二月会計、記載ナシ)

(二月)

二月一日 庚寅 月曜 終日雨。
朝六時起。墓参ス。此日より授業始ヲなす。

方々より今日迄、備物及御見舞続々来。記するにいとまあらず、略す。

*備物(供物)

二月二日 辛卯 火曜
英照皇太后御出棺日ニ付、全国休業。朝豪雨。十時頃、雨霽天拭か如し。暖気六十度余也。来客、加茂富子。弘児、石神井村ニ帰ル。

加茂富子より唐饅頭一箱。五島善子より蒸菓子二箱。

二月三日 壬辰 水曜 晴。

朝六時起。墓参す。課業如例。入門、上村藤江。来客、千家国子、山県孝子。

安田輝子より果物一籠。山県氏より鮎すゝめ焼、守口つけ。桜井旨子、菓子一箱、鏡餅一重。青山柳子、大百合沢山。青木静江より鮎糟つけ一箱。小西有勲より、鶏卵一箱。森永琴より蒸菓子。

*鮎すゝめ焼(鮎雀焼) *守口つけ(守口漬)

二月四日 癸巳 木曜 晴。六十五度。

朝六時起。飯後墓参して帰。来客、佐藤朝江。午下、佐野隠居ヲ訪ふ。病氣ニ付不逢。重威ヲ訪テ帰。昨今之暖気ニテ梅花盛開。書至、降旗元三郎。

佐藤朝江より干菓子一箱。

(二月五日〜八日、記載ナシ)

二月九日 戊戌 火曜 晴。
朝六時起。課業如例。来客、橋本太吉、毛利様御使。

二月十日 己亥 水曜
朝六時起。課業如例。故千久子廿日祭執行ス。祭主重威。子供等神饌を供す。畢而一同墓参す。帰り、晚餐を饗す。

(二月十一日〜十三日、記載ナシ)

二月十四日 癸卯 日曜
朝六時起。墓参して帰。来客、大坂星信三女みちなる者一人にて来ル。余、逢候処、段々物語之内、逃走らしく候ニ付、咄し半ニテ大坂え電報懸ル。先々此方ニ居るへき様申たれば、本人も大悦ニテ、塾え入置候也。

(二月十五日〜十八日、記載ナシ)

二月十九日 戊申 金曜 徳川氏稽古日。
朝六時起。墓参して帰。課業如例。午下一時より徳川氏稽古始をなす。帰途、雪降出ル。夜ニ至り積事五寸計。

二月二十日 己酉 土曜 陰。
朝六時起。課業如例。故千久子三十日祭、午下一時より祭典す。祭主重威。子供等神饌を供す。畢而皆々墓参する。此晝五時前地震、震力よほど強く、生徒等庭え出す。雪中ニたゝすむ。五分間余也。大坂星双桂、浅野政助之兩人来。星道女逃走いたし候ニ付、迎ひに参り、本人連帰り候。

(二月廿一日、廿二日、記載ナシ)

二月廿三日 壬子 火曜
朝六時起。墓参して帰。課業如例。

二月廿四日 癸丑 水曜 晴。
朝六時起。墓参して帰。課業如例。午下、戸田氏、五島氏教授して帰。姉小路邸を訪ふ。夜十時迄雑談して帰。愛治郎、桃子も来ル。

二月廿五日 甲寅 木曜 晴。

朝六時起。墓参して帰り、課業如例。午下、岩倉氏ニ教授して、閑院宮邸ニ参り、御杉戸画揮毫す。四時過去ル。帰途、元園町万里氏を訪ふ。皆不在ニテ直ニ帰。来客、京都角尾啓及玉枝。姉小路三位殿、此日、紀州地方え出立。

二月廿六日 乙卯 金曜 晴。

朝六時起。墓参して帰ル。課業如例。御寺御所え、菓子及綿毛布切地を小包ニテ贈ル。

二月廿七日 丙辰 土曜 晴。

朝六時起。墓参して帰り、課業如例。千久子形見物取しらへる。

二月廿八日 丁巳 日曜 晴。

朝六時起。終日揮毫ス。来客、立石八重子。

立石氏より、カル、ス煎餅一罐。

受方摘要 会計より五円。

払方摘要 雑費、四円五十錢。陽子え二円。

(二月会計、記載ナシ)

(三月)

三月一日 戊午 月曜 終日曇、夜細雨、又淡雪なり。

朝五時起。祭祀す。午下墓参して、植物園逍遙す。梅花の盛也。課業如例。英照皇太后宮陛下御五十日祭。遠藤泰治郎、食客となる。

斎藤兩人より、むし菓子一箱。佐野常子、むし菓子一箱。

三月二日 己未 火曜 朝陰、午下晴。

故千久子四十日祭。朝五時起。祭祀す。此日より習字試験執行ス。午下一時より祭典す。

重威祭主、祝詞を申す。畢而皆墓参して帰ル。四時、夕飯を饗応す。賑々敷事也。夜八時皆済。書至、御寺御所東雲。

万里為子、鶏卵一箱。小橋氏、備もの菓子。上芝岩太より、びん詰物。赤倉より白さけ一樽、菓子一箱。

*備もの(供物) *白さけ(白酒)

三月三日 庚申 水曜 晴。三十二度。

朝五時起。課業如例。午下、戸田氏、五島氏ニ教授して、帰途姉邸を問ふて帰。

三月四日 辛酉 木曜 晴。
朝五時起。課業如例。午下、岩倉氏ニ教授して、それより閑院様え参り、御杉戸揮毫して帰。

三月五日 壬戌 金曜 晴。
朝六時起。艾翁祭典執行す。此日より五十日祭志の帛紗地配分する、三百六十軒。遺物を贈ルもの、五十五人。

三月六日 癸亥 土曜 晴、夜雨。
朝五時起。書の試験畢而墓参す。来客、斎藤善子。朝より故千久子五十日祭志帛紗地配物する。終日也。

三月七日 甲子 日曜 朝晴朗、午下陰晴不定。
朝六時起。母の祭を執り行ふ。来客、近藤友正妻、角田四三子、千恵子、大村梅子、多久庸。五十日祭配りもの全畢。
受方摘要 大村氏、千疋。

三月八日 乙丑 月曜 朝雨、午前より雨止。
朝六時起。祭祀す。課業如例。午下一時より挙家一同伝通院ニ参詣す。故姉小路寿子殿十三回忌ニ付、本堂に於て読経上ル。御所より藤袴内侍様にも御下りにて、御法事営ませられる。別段御客とはなく、たゞ御内のみ也。皆々上香済て、墓参して姉邸ニ参る。万通房伯、石山基遂、すま子、岡崎忠子さまも御出にて、御すもの外ニ、三種の御肴にて、御酒も出て、殊の外賑々しく御法事は相済候也。藤袴さまハ六時御上りニ相成、外皆々八時頃帰。

三月九日 丙寅 火曜 陰雨不定。
朝五時起。島居氏忌日ニ付、祭祀する。課業如例。来客、島田信子。

三月十日 丁卯 水曜 晴朗、午下風。
朝六時起。妹菊野忌日ニ付、祭祀を行ふ。課業如例。書至、七通。

三月十一日 戊辰 木曜 晴。
朝六時起。課業如例。午下休業ス。明日の準備ニおこたりなく、祭典所ニ階の講堂に相成。此日より御備物等所々より来る。

*御備物(御供物)

三月十二日 己巳 金曜 陰。

朝五時起。五十日祭当日ニ付、手伝之人々も朝より参り、招待の客、岩浪稲子、万里小路通房、田村兩人、松野鉄千代、安田暉子、遠藤義為、近藤友正、原富太郎代井上氏、重威、姉小路良子代豊。丹羽花子、是ハ推参也。午前十時、講堂ニ於テ祭典。祭主千家尊光、祭官四人、伶人三人。塾生徒一同参列ス。式全畢而一同墓参ス。帰り、昼餐を饗ス。食事畢而四時六時の間ニ來賓帰ル。招待客之外、三十人之膳部ヲ出す。先々五十日祭も滞なく、賑々敷相濟候也。備物、菓子、其外沢山、金子八十円余也。

久米より御召縮緬一反、唐紋縮緬一反、瑠球つむき一反。
*備物(供物) *瑠球つむき(琉球紬)

三月十三日 庚午 土曜 晴。

朝六時起。かなの試験也。

*かな(仮名)

三月十四日 辛未 日曜 晴。

朝六時起。揮毫ス。愛治郎、子供連て久米氏を訪、夜八時帰。遠藤義為、朝十二時三十分汽車ニテ帰国。弘児も、朝石神井村ニ帰。多久康氏え書を寄す。

三月十五日 壬申 月曜 雨。

朝六時起。墓参して帰。祭典執行す。課業、かなの試験畢る。立花邦子使來、書至。

*かな(仮名)

三月十六日 癸酉 火曜 朝雨、已而晴。 徳川氏稽古日。

朝六時起。白山神社ニ参詣して帰。画の試験ニかゝる。午下、徳川氏ニ教授して帰。來客、浦太郎。

三月十七日 甲戌 水曜 彼岸入。晴。

朝六時起。散歩して帰。課業如例。午下、戸田氏、五島氏ニ教授して帰。來客、角田栄子。

三月十八日 乙亥 木曜 晴。

朝六時起。散歩して帰。課業如例。午下、岩倉氏ニ教授して帰。書至、九条恵子。

三月十九日 丙子 金曜 雨。

朝六時起。白山ニ詣て帰。課業如例。

三月二十日 丁丑 土曜 春季皇靈祭。朝より雪霏々、寒威甚。
朝六時起。白山ニ詣て帰。大塚豊子より、書及鱒の**でんぶ**三曲着。先祖祭執行す。生徒一同え**名々**盆ニテ赤飯、**御にし**にて饗す。

*でんぶ(田麩) *名々(銘々) *御にし(御にしめ)(御煮染)

三月廿一日 戊寅 日曜 晴、朝雪ちらつき、已而晴。

朝五時起、祭典す。午下二時より五軒町五年祭典に参詣して、日暮帰。

三月廿二日 己卯 月曜 晴。

朝六時起。故千久子祭典執行す。午下墓参。課業如例。名古屋徳川氏え御手本小包ニテ出ス。

三月廿三日 庚辰 火曜 朝曇、午下晴。

朝六時起。牛天神ニ参詣して帰ル。課業如例。午下二時比より**田畑**田村氏別荘ニ行。余、栄子、星野常と同道。田村氏誕生日ニテ、園中三社祭典、神楽等ニテ賑々敷、梅若、大倉も来り、謡、舞等もありて、五時頃帰。

*田畑(田端)

三月廿四日 辛巳 水曜

朝六時起。牛天神に詣して帰。試験此日全く畢ぬ。余、風氣にて臥蓐す。

三月廿五日 壬午 木曜 晴。

この日終日蓐にふす。生徒各々家に帰る。

*ふす(伏す)

三月廿六日 癸未 金曜 雨。手洗水氷を結ぶ。寒甚。

朝六時起。来客、浦氏。

三月廿七日 甲申 土曜 雨。

朝六時起。揮毫す。

三月廿八日 乙酉 日曜 雨、三日間雨降しきる。夜八時過、雲霽、星見える。

朝六時起。揮毫する。**名古屋**徳川氏え書をよす。越後大塚豊子え同。

*名古屋(名古屋)

三月廿九日 丙戌 月曜 晴朗。

朝六時起。牛天神え詣して帰。午下、余、桃子と同しく、絵画競進会ニ画を觀而帰。久々の晴にて、東台の群集夥しく、始而春らしくなりぬ。書至、徳川富子。退校、田辺朝子。縁段齊ひ、明三十日結婚のよし也。下婢旗鎌まさ、養子もらひ受たるニ付、御ひま願ひ出て家に帰る。

*縁段(縁談)

三月三十日 丁亥 火曜 雨、終日降通し。
朝六時起。揮毫する。来客、角田栄子。

三月三十一日 戊子 水曜 晴。

朝五時起。牛天神ニ詣て帰。午下早々戸田氏ニ教授して、閑院宮様え参り、御杉戸揮毫して、日暮ニ帰。来客、浦太郎、諏訪常子。

本学期卒業生

国漢、三条篤子。漢、松野利根。漢、中村敬子。書画、池田幾子。全全、毛利式子。
国、菅野秀子。国漢、梶山玉子。裁数、渡辺増子。国漢裁、塩原豊子。裁、石山晨子。
優等賞、三十式人。数学卒業、十四人。

(三月会計、記載ナシ)

(四月)

四月一日 己丑 木曜 朝晴、霜はしらたてり。午下雨。

朝五時起。牛天神ニ詣て、墓参して帰。終日揮毫する。浦太郎氏より角田四三子え結納済。

来客、土屋貞次郎母、山下秀子を供なひ来ル。入門、山下秀子。

受方摘要 上野とせ、二円。

*霜はしら(霜柱) *たてり(立てり) *供なひ(伴なひ)

四月二日 庚寅 金曜 終日雨ふりぬ。

朝六時起。明日の準備する。

四月三日 辛卯 土曜

朝五時起。朝より雨降りて、来会者もいと少なき事と思ひぬ。九時頃、天晴渡りて拭か如し。午下一時迄ニ生徒等続々来ル。一時半、講堂ニ於テ卒業証書授与式を執行ふ。畢而庭中ニ於て小川一真撮影す。畢而一同えすもしを饗す。来会者九十名余也。本年、英照皇太后御喪中ニ付、いと質素ニて客をもなさず、現在の生徒のみ也。入塾者、江馬静子、池田

きさ、安齋国。入門、片山種、山内錦、大野柳、小島富、佐原徳、清水秀尾。京都姉小路領地なる元庄屋小島久左衛門、其嫁同道にて来ル。三十年来の久々にて旧を話し、新をかたる。此度、東京見物のよし也。天、晴雨さたまらず。来会者、四時全帰。五時頃、虹いと明らかにして、空晴わたる。夜また豪雨也。

受方摘要 小島氏、一円。渡辺玉、千疋。

*拭か如し(拭が如し) *なさす(成さず)

四月四日 壬辰 日曜 晴。

朝六時起。揮毫。退校、長尾俊子。来客、仁科駒。

受方摘要 三条家、一円五十銭。

四月五日 癸巳 月曜 晴。

朝五時起。牛天神ニ詣して帰。授業始をなす。入門、間野仲、本多ナ、大和田村。入塾、田中りん、大橋貞子。五軒町重威方ニテ先祖祭執行ニ付、午下三時より、余、栄子、鶴子を拉して、参詣して帰。来客、佐野隠居、全快ニ付御礼に来られる。点灯後帰られる。朝、角田栄子。

四月六日 甲午 火曜 午後、雨降しきる。夜も終夜降通し、いかに雨も有るものかなとあきるゝはかり也。

朝五時起。牛天神に詣して帰。課業如例。来客、羽生峰子父。

受方摘要 梶山玉子、井上久可、塩原豊子、渡辺増子、金廿円。

四月七日 乙未 水曜 晴、風。

朝五時起。母の祭日ニ付、祭祀を行ふ。来客、塩野門之助、本郷佐一郎。入塾、塩野楠菊、塩原夏子。余、午下、戸田氏ニ教授して、五島氏ニ行、教授して帰。庭中桜花、始めてひらき初る。

(四月八日、記載ナシ)

四月九日 丁酉 金曜 雨。

朝五時起。課業如例。午比より仁科駒来。午下、山形菊来る。余の誕生日のつもりにて也。本年ハ何も素質にて、誕生の祝ひも先来月のつもり也。皆々夕方迄遊びて帰。

受方摘要 石山農子、千疋。

*素質(質素)

四月十日 戊戌 土曜 晴。

朝五時起。白山神社に参詣して帰。入塾、山中芳子、田口竹子。入門、小林もと、日根野富、高橋増。課業如例。終日揮毫す。

四月十一日 己亥 日曜 晴。

朝六時起。絹本二枚揮毫す。午下角田氏二行、四三子縁談齋ひたるに付、その祝として松魚、松竹梅のかさりたる一台、緋の板しめ一卷を祝ふ。種々拵もの等も見て、夫より島田三郎氏を訪ひ、夫婦と暫時対話して、新宅浦氏を訪ふ。同人不在ながら、此度の縁談に付、御召縮緬一反を祝ふ。已而帰、直に五軒町を訪て、日暮て帰。

四月十二日 庚子 月曜 晴。

朝六時起。揮毫ス。午下、徳川氏ニ教授して、帰途、東台の花を観る。先六分通りの花咲出たるに、人の群集には驚くへき。広き公園ニ満々たるハ、久々の好天気故か。四時帰。はた井深氏建築以來始めての招待にて、余、愛治郎、桃子、泰と行。楼上より詠め、わか庭のさくらの咲出たるたま、いと珍らし。わかさくらを外の家にて花見したるも面白し。夜七時帰。入塾(氏名欠)。来客、斎藤善子、千賀子。松の帰塾ス。

受方摘要 斎藤兩人より五円。同、千疋。

*咲出たるたま(咲出たるさま) *わか(我が) *わか(我が) *松の(松野)

四月十三日 辛丑 火曜 晴。

朝五時起。氷川神社ニ詣す。所々花の咲出たるに、朝霞のけしき実嬉しきもの也。只々花にあくかれて墓参して帰。来客、折田親子薩人平岡八郎方え嫁して始て来る、重威女幾子来、山県幸子。帰塾、田村盛子、野田操来。田村氏よりふらんねる二反。

*あくかれて(懂がれて) *ふらんねる(フランネル)

四月十四日 壬寅 水曜 晴、夕景雨。

朝五時起。牛天神ニ参詣して江戸川兩岸の桜花を見る。中の橋より東西の花を、実に満開、逍遙して帰。午下、戸田氏ニ教授して、五島氏二行、教授して、新宿御苑の観る。廿万坪之御苑、只々白雲の如し。石山氏、祖先祭りに拝して帰。帰途雨ニ逢ふ。

*花(を)(ママ) *新宿御苑(の)(ママ)

四月十五日 癸卯 木曜 雨。

朝五時起。祭典す。夫より墓参して帰。課業例の如し。畢而車をはせて新橋停車場に行。藤袴内侍様御先着ニ付、今十二時三十分汽車ニテ京都え御出発之御見立申上ル。青山御所ハ、浜荻典侍様御はしめ御同車也。皆々御見たて申上て、夫より長谷川喬氏を訪テ、元園

町万里家を問ふ。午下五時帰。

四月十六日 甲辰 金曜 朝少し雨、已而晴。好天気十分也。

朝五時起。課業如例。午下休業、塾生一同を拉して小石川植物園ニ観桜会をなす。会する者百人也。桜花はけふを第一とす。風なく、いとうらゝかにて、生徒の悦、ひとかたならず。議事堂にて、御すもし、さくら餅をたうへて、いとおもしろく楽しむて六時帰。旧の十五夜にて、月鐘の如く花に照りそひて、得もいはれぬ風情なり。

*たうへて(食べて) *月鐘(月鏡) *得もいはれぬ(得も言はれぬ)

四月十七日 乙巳 土曜 終日曇。

両陛下、京都市幸御発輦也。朝五時起。本郷丸山辺桜花に逍遙して帰。課業如例。この夕景、また井深氏二行て、わか庭の花を見る。実に珍らしく、賞すへき也。已而帰。

*わか(我が)

四月十八日 丙午 日曜

この日、浅草山県氏よりかねての招待にて、天気ならば朝八時出門之処、朝四時比より雨降出てる。しかれ共、生徒ハみな化粧等出来候て行く事をいそぐ。十一時より出門。この行三十一人也。みな車を揃て行。少時にして雨も晴、山県氏二行。夫婦之悦一方ならず。墨堤の桜花真盛りなり。けふを見比と追々遊舟も出て来て、堤及川を賑ひぬ。昼餐の饗応もすみて、午下三時過かねてよそほひたる大てんま船に乗。外ニしらを船及網舟も用意有て、隄の下を行。実に花のあたりのおもひくの出でたちにて、おもしろき事也。水雷艇ニ上りて、諸器械の説明等もある。船を上へのほして、はし場辺りに着。三条家御別荘を訪ふ。心浄院様御在邸にて、少時御咄し等もいたし、御茶菓をいたく。はた皆船にのりて、方々ある会社、何々のうかれ船などにて、終日大くたのしみて帰りぬ。時七時也。入塾、桃井茂子。

*大てんま船(大伝馬船) *しらを船(白魚船) *はし場(橋場)

四月十九日 丁未 月曜 雨。

朝五時起。課業如例。入門、小橋次子。来客、大塚由之。浦太郎氏え角田四三子入興ニ付、桃子媒妁をたのまれ、午後早々角田氏二行。余、愛治郎、五時より亀清二行。角氏夫婦、島田氏夫婦、小野田氏、千葉氏、皆来。結婚之式有りて後、広間にて祝宴賑々敷相済、めて度限りにこそ。十時也。

*角氏(角田氏)

四月二十日 戊申 火曜

朝五時起。英照皇太后宮命御百ヶ日祭典行はせらるゝに付、休業す。遥拝申上ル。

四月廿一日 己酉 水曜

朝五時起。課業如例。桑田良隆、短冊二枚、寄海祝、支那征伐之哥。小野鶯堂、色紙二枚、鳩のうた、咏史詩七絶。午下三条邸二行、治子君ニ対面す。折よくみさ子様成らせられて、**たいめ**申上る。篤子様御病氣御見舞申上ル。いまた御熱のさし引不止、御臥蓐遊され候。それより閑院様え参る。御殿より紀尾井町の詠め、花のしら雪か雲か、松の木間より見ゆるさまハ、外になき詠めなり。此風色ニ恋々として五時去ル。

*たいめ(対面)

四月廿二日 庚戌 木曜 晴。

朝五時起。墓参す。千久子**明日**ニ付、祭典す。午下早々閑院様え参り、御杉戸揮毫す。五時三十分ニ去ル。点灯比帰宅ス。夜七時頃、ふと森肇氏より電報来ル。律、妙子只今来ル、すぐ車にて送ル、安心、といふ。実ニ驚愕。誰一人しるものなく、いかにして行きたらむやと種々想像のみ。其うちに森氏より送り来る。兩人ハ歩行にて行たるよし。先々恙ななくて仕合也。退校、福島初子。**八応寺**大火。

*明日(命日) *八応寺(八王子)

四月廿三日 辛亥 金曜 晴。

朝五時起。白山ニ参詣して帰。祭祀す。課業如例。来客、松田今子、**陳幕**。

受方摘要 松田今子、三円。

*陳幕(陣幕)

四月廿四日 壬子 土曜 晴。朝五十度、空寒し。

朝五時起。牛天神に詣して帰。花ハ大かた散はて、けしき一変新緑となる。はやき事矢の如し。

四月廿五日 癸丑 日曜 雨。

朝六時起。揮毫す。午下三時比より墓参して、姉邸を問ひ、已而帰。来客、**陳幕**妻福女。入塾、宮田国子。

*陳幕(陣幕)

四月廿六日 甲寅 月曜 晴。

朝五時起。**近方**逍遙して帰。来客、**陳幕**。午下、余、愛治郎と同道にて、石神井高橋二行。弘、病後いまた全く快復にいたらず、起臥いたし居るよし。**あん**したれ共、**かく別**の事もなく、顔色のあしきに養生のみ也。氷川神社ニ同道して帰。夕飯を喫して帰。夜七時也。

*近方(近傍) *陳幕(陣幕) *あんし(案じ) *かく別(格別)

四月廿七日 乙卯 火曜 晴。

朝五時起。墓参す。千久子石碑建設出来ず。帰、課業如例。午下一時四十分汽車にて愛治郎、桃子、栄子、佐野常子、田村盛子と同じく、横浜原氏八幡祭二行。夜九時帰。

四月廿八日 丙辰 水曜 朝雨、午下晴。

朝五時起。課業如例。午下、戸田氏に教授して、五島氏二行。姫御子出産二付、鶏卵一箱、**緋友仙縮緬**半反を祝ふ。御婦子共大ニ壮健也。暫時にして帰。帰途、山伏町関今子を訪ふ。不在にてその母ニ面会して帰。松岡久子退塾。内山竹子退校。

*緋友仙縮緬(緋友禅縮緬)

四月廿九日 丁巳 木曜 晴。

朝五時起。氷川神社に参詣して帰。課業例の如し。午下、岩倉氏に教授して、閑院宮に詣し、御杉戸揮毫す。それより三条家篤子様、夏子、末子さまの病気を御尋ね申す。御二方ハ先々麻疹の御模様也。已而帰。帰途、角田氏を訪ふて帰。

四月三十日 戊午 金曜 晴。

朝五時起。祭祀す。課業例の如し。来客、千家国子、角田真平、浦太郎。宮田国子、退塾を命ず。

受方摘要 岡田后徳、一円。

(四月会計、記載ナシ)

(五月)

五月一日 己未 土曜 天晴。

朝五時起。課業例の如し。千久子百ヶ日祭典執行。午下一時、重威祭主。生徒、琴楽及神饌を供す。来客ハ例の如し。畢而墓参す。生徒一同同行す。実ニ賑々敷事也。已而帰、四時より食事を出す。日暮全済。此日、始て袴を着す。始ての暑さに皆々汗帯に通る。御供物、菓子、果物、其外沢山、及金三十三円也。来客、志賀重昂、長松菅子、米倉山、米倉秀三嫁長子。

五月二日 庚申 日曜 晴。

朝五時起。揮毫ス。十時より、余、愛治郎、桃子、栄子、鶴子と同じく、歌舞伎座に観劇す。田村氏之招待也。春雨傘、和田合戦。終日面白く楽しんで、夜九時無事に帰。退塾、

佐藤糸子。

佐野氏より白羽二重一反箱入。

五月三日 辛酉 月曜 雨。朝より雨、終日降通し、夜二入て十二時頃の雨すさましく、実に盆を復すといふ。

朝五時起。雨中散歩して帰。課業例の如し。入塾、角田斌子。入門、川連この、寺島一栄、志賀秀、中村しま、川端松枝。退塾、桃井茂子。

田村氏より薄せる一反。

*復す(覆す) *薄せる(薄セル)

五月四日 壬戌 火曜 晴。

朝より雨晴。六時起。課業如例。来客、田村利七、毛利式子。

五月五日 癸亥 水曜 晴。

朝五時起。近辺散歩して帰。課業如例。正午より戸田氏ニ教授して、代々木久米氏二行。端午節句にて招待を得て也。先、園遊会にて賑々敷事也。少時にして愛治郎、栄子、米子、常子、星の常子、盛子を連て来ル。芸尽しにて面白き事也。時八時過、汽車に乗して帰。
*星の常子(星野常子)

五月六日 甲子 木曜 晴。

朝五時起。墓参して帰。課業例の如し。

五月七日 乙丑 金曜

朝五時起。氷川神社に詣て帰。課業例の如し。来客、志賀重昂。

五月八日 丙寅 土曜 晴。

朝五時起。課業例の如し。畢而、明日は余の誕生日にて生徒打寄、その祝のため園遊会を催ほさんとて、一同こぞりてその準備をなす。

五月九日 丁卯 日曜 雨。

朝五時起。空陰にして園遊会もおほつかなかりしも、庭の新樹の枝ことに紅灯かゝけて、講堂の軒に奉祝の額面をかゝく。茶亭三ヶ所にもうけ、かうひ、桜湯、らむね、正宗の店、一は、すもし、うま煎、くしたんこ、一は、菓子、せんへい、桜の手ぬぐひ、牡丹のかんさし店にて、午後一時よりはしむ。大かたそのかざりもしつらひたる時より、雨降りいたして、俄に塾中にて店かざりも出来、追々来会者も有て、殊の外賑々しく、夜九時頃まで、みなあそび興したり。

*もうけ(設け) *かうひ(コーヒ) *らむね(ラムネ) *うま煎(うま煮) *
くしたんこ(串団子) *せんへい(煎餅)

五月十日 戊辰 月曜 晴。

朝六時起。休業す。朝より天気もよく、晴わたりて昨日にかへまほしうと、皆々残りをし
くて、はたこの日午後より園遊会をなす。はた木々の枝に紅灯をかゝく。青葉の**かけ**に百
五十はかりの紅灯なれば、そのけしき画にかいたらんにはとはかりのけしきにて、はた、
すもし、菓子、**かうひ**店などにて、夕餐も庭にて**たうへて**、いと／＼きのふよりもまたお
もしろく、余興に写真師めして、茶店の模様を撮影す。八時全畢。新月最清し。

*かけ(陰) *かうひ(コーヒ) *たうへて(食べて)

五月十一日 己巳 火曜 昨夜より雨、けふもふりつゝく。

朝五時起。課業如例。入門、久松美佐治。来客、安齋嘉兵衛。書至、角田氏より十四日招
待せらる。

山内節子よりなるみ一反。

*なるみ(鳴海)

五月十二日 庚午 水曜 晴。

朝五時起。課業例の如し。午下、戸田氏に教授して、岩倉氏二往、梭子、八千子に教授し
て帰。入塾、津田文子。

五月十三日 辛未 木曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下早々植物園二行。躑躅の真盛りにて、所々散歩して、帰途墓参
して帰。

五月十四日 壬申 金曜 晴、月清。

朝五時起。**近方**散歩して帰。課業例の如し。午下四時より、余、愛治郎、桃子と同しく、
角田氏二行。予ての招に応して也。来客、志賀夫婦、沼氏未亡人、浦氏夫婦。余興、若林
演史あり。晚餐を喫して、談話の面白ろき、またいふへからず。九時帰。

*近方(近傍)

五月十五日 癸酉 土曜 晴、四時頃より雨。

朝五時起。墓参して帰。課業例の如し。午下揮毫する。園中にて挙家六人撮影す。退校、
遠山定子。

五月十六日 甲戌 日曜 朝より雨、午下五時頃より晴。満月、雨後殊に清し。

朝六時起。揮毫ス。

五月十七日 乙亥 月曜 晴。

朝五時起。散歩して帰。課業例の如し。午下、墓参して帰。愛治郎、牛込氏二行。

五月十八日 丙子 火曜 晴。

朝五時起。散歩して帰。課業例の如し。池田きさ子、病氣ニ付江馬氏え送る。来客、広田うら。

五月十九日 丁丑 水曜 晴。

朝五時起。散歩して帰。課業例の如し。入門、永田みさ江。余、午下、戸田氏、田村氏、小松宮、岩倉氏え行、教授して帰。愛治郎、代々木石神井村二行。新井好子病氣ニ付、保証人方え送る。江馬静子、神田江馬氏え帰る。

五月二十日 戊寅 木曜 晴。八十度。

朝五時起。散歩して帰。課業例の如し。来客、渡辺増子父、落合氏。寄書、舞子姉伯え。同、京都御所、藤袴内侍。同、国府津広田千代え画の手本も出す。桃子、昨夜より微恙休業。

(五月廿一日、記載ナシ)

五月廿二日 庚辰 土曜 晴、風。

朝四時起。散歩して帰。課業例の如し。午下早々、余、田村氏二行、予て契りたる長子、増子と共に、三井俱樂部にて能楽見物す。三井森之介、今度洋行ニ付、その送別会といふ。盛久、藤戸、石橋、紅葉狩を見て、晚餐饗せられる。畢而又田村氏ニ寄、食事して帰。九時也。朝十時比、築地本願寺蓮華殿焼失すといふ。

五月廿三日 辛巳 日曜 晴。

朝六時起。揮毫す。来客、牛込幸子。

牛込よりちゝみ一反。

*ちゝみ(縮)

五月廿四日 壬午 月曜 晴。

朝五時前起。散歩して帰。課業例の如し。来客、安田輝子。

五月廿五日 癸未 火曜 豪雨、雷鳴、所ニ寄ては雹降。

朝五時起。雨中近方散歩して帰。課業例の如し。来客、山県孝子。午下四時頃より俄然黒雲起、雷鳴。七時頃霹靂一声可驚、雨盆を復す。暫時にして止。西富坂空地ニ落雷すといふ。

*近方(近傍) *復す(覆す)

五月廿六日 甲申 水曜 晴。

朝五時前起。白山神社ニ詣て帰。午下、戸田氏、岩倉氏ニ教授して、閑院宮様ニ詣し、御杉戸揮毫して、晡時帰。

五月廿七日 乙酉 木曜 晴。

朝四時起。氷川神社ニ詣て帰。課業例の如し。来客、大坂星みち。

五月廿八日 丙戌 金曜 晴、風。

朝四時起。白山神社に参詣して帰。休業。皇后宮地久節。十時頃より代々木久米氏二行、金地襖二枚若松と裏銀地若竹揮毫して、晚餐を喫して馬車にて帰。

五月廿九日 丁亥 土曜 朝晴、午下四時頃より雨。

朝四時起。氷川神社ニ参詣して帰。臨時休業。庭中にて写真撮影す。

五月三十日 戊子 日曜 晴。

朝五時起。終日揮毫す。青木玉子、横浜より帰来す。退塾、渡辺増子。

森永氏より御ゆかた一枚。

受方摘要 会計より五円。

払方摘要 雑費、拾弍円四錢也。

五月三十一日 己丑 月曜 晴。

朝四時起。氷川神社ニ参詣して帰。課業例の如し。帰塾、三条夏子、末子。吉田鉦子え手本出ス。藤袴内侍様より、もとく昆布袋入、山出し昆布箱入、おまめ箱入着す。

受方摘要 三条家より五円。

払方摘要 陽子え四月、五月分、二円。

(五月会計、記載ナシ)

(六月)

六月一日 庚寅 火曜 晴。

朝四時起。氷川神社ニ参詣して、墓参して帰。御神前祭典する。課業如例。来客、宮原六之輔、一宿。代々木久米氏え並木行手本及文出ス。

田村氏よりちゅみゆかた一反。

*ちゅみ(縮)

六月二日 辛卯 水曜 晴。

朝四時起。墓参して帰。祭典執行す。課業如例。朝七時より戸田氏ニ教授して帰。寄書、三条家、辻八千子。来客、梶山玉子、明日帰国ニ付、御暇乞に来ル。入塾、甲原須磨子。入門、永田。六時頃より、余、愛治郎、桃子、五軒町ニ行、重孝五年祭日ニ付、玉串ヲさける。夕餐を喫して、九時帰。石山基威、解雇ス。

六月三日 壬辰 木曜 朝晴、午下、雨。

朝五時起。散歩して帰。課業例の如し。来客、長谷川千賀子、佐野隠居。入門、玉川貞子。明四日、重威、京都及須磨病院に姉小路を訪ふ為出発ニ付、良子様え車の前懸、姉小路さまえヒスケ一罐を贈ル。重威えちゅみゆかた一反、サンドリツチヲ餞別す。

玉川氏より、ゆかた地二反。

*ちゅみ(縮)

六月四日 癸巳 金曜 晴。

朝五時起。課業例の通り。広田氏え(虎の粉本借す。入塾、佐野小梅。午下五時より、余、桃、泰と新橋ニ行。重威京都え出発、六時廿分汽車見立て。余、桃子の兩人、江副氏留守見舞ニ寄、晚餐饗せられ、九時帰。

*借す(貸す)

六月五日 甲午 土曜 終日雨。

朝五時起。散歩して帰。課業例の如し。十一時頃より、余、愛治郎、桃子と川上座え観劇す。予て約の如く、宮原六之介氏も来ル。午下六時全畢。入塾、青木幾重。右ニ付原安子来。皆留守ニ付、井上市兵衛劇場え呼ニ来ル。桃子帰宅する。又来ル。

受方摘要 青木幾重、廿円。

六月六日 乙未 日曜 小雨、夜雨切なり。

朝六時起。揮毫す。愛治郎、生徒四人を連れて、大宮公園ニ遊ぶ。来客、塩原豊子。受方摘要 塩原豊子、十円。

*切(しきり)

六月七日 丙申 月曜 小雨。
朝五時前起。墓参して帰。課業例の如し。晚景、五軒町を訪て帰。

六月八日 丁酉 火曜 朝晴、四時頃より雨。

朝五時起。墓参して帰。課業例の如し。午下、閑院宮に詣し、先月廿九日御誕生之姫宮茂子女王様見上ル。実に玉の如し。よく御肥満、頗ル御健全の御様子也。松魚一箱献上、暫時にしてまかる。万里家を訪ふて、西三条氏に行。浜子本月二日女子分娩、知子ト名命す。是また頗ル健全也。緋の友仙縮緬生着を祝ふ。

*名命(ママ) *友仙縮緬(友禅縮緬) *生着(産着)

六月九日 戊戌 水曜 晴。

朝五時起。課業例の如し。広田氏え虫の行列粉本かす。寄書、横浜原氏え。午下早々戸田氏ニ教授して、徳川氏に書画教授して、橋場三条信受院殿を問ふ。種々御談話申上、御酒肴をいたゞく。晡時帰。来客、茂木栄子。

六月十日 己亥 木曜 晴、夜月清し。

朝四時過起。散歩して帰。課業例の如し。

六月十一日 庚子 金曜 晴、夜月始而清光。

朝四時過起。散歩して帰。課業例の如し。午下、茂木栄子来、不二山の画揮毫して帰。来客、安田輝子、千代子。

六月十二日 辛丑 土曜 曇、夜雨。

朝四時過起。墓参して帰。来客、渡辺玉子、増子。午下二時過より、余、愛治郎、栄、鶴を拉して、道灌山弘児の袍衣のしるし改建いたしたる二付、見分する。暫時茶亭ニ休憩する。この台よりの眺望殊に勝景愛すへし。下ニをりて、田畑停車場の辺より中根岸美濃部氏を問ふ。あやにく不在にて、直に上野辺逍遙して帰ル。

渡辺氏より小紋御召一反、小紋ふらんねる一反。

受方摘要 渡辺氏より十円。

払方摘要 双眼鏡代、六円。
*をりて(降りて) *田畑(田端) *ふらんねる(フランネル)

六月十三日 壬寅 日曜 晴。

朝五時起。終日揮毫す。来客、玉枝。午前九時、新橋着にて重威京都より帰ル。余、五軒町迄行。先々無事着にて、暫時清談して帰。

六月十四日 癸卯 月曜 雨。

朝四時過起。氷川神社ニ参詣して帰。課業例の如し。書至、美濃部俊吉。愛治郎頭痛、熱気もありて臥。

田村氏よりちみゆかた一反、布団敷二枚。

*ちみ(縮)

六月十五日 甲辰 火曜 晴。

朝四時起。嚴父の祭典執行して墓参す。帰り、課業例の如し。入塾、酒井恵子。写真師中黒来り、庭中にて生徒一同撮影す。来客、久米節。

久米より紋羽二重友仙一反、さつま上布一反。

*友仙(友禪)

六月十六日 乙巳 水曜 雨。

朝五時前起。氷川神社に参詣して帰。課業如例。雨中のつれづれに山形菊を呼ぶ。写真師中黒来、昨日の写真時間遅くて鮮明ならずとて、写し直し。

受方摘要 軍事公債利子請取、七円五十銭。

六月十七日 丙午 木曜 雨、午下晴。

朝四時過起。課業例の如し。愛治郎病氣全快二付、晚餐ニ菊枝、陽子、玉子を饗す。夜、井深氏を訪ふ。月を楼上に見て帰。

六月十八日 丁未 金曜 晴。

朝四時起。散歩して帰。課業例の如し。午下一時より閑院宮様に参り、御杉戸揮毫す。殿下に拝謁す。六時帰。来客、江副細君。

六月十九日 戊申 土曜 晴。

朝四時起。牛天神に参詣して帰。課業例の如し。来客、牛込幸子。

六月二十日 己酉 日曜 晴。

朝五時起。来客、山片菊、上芝氏、北村氏。午下六時より、かねて招かれたる田村氏、六角観音堂修理ととのひ、開眼日にて、これは済て茶事にて饗応せらる。余、愛治郎、桃子、栄、鶴と山登みつとの六客也。濃茶済て、広間にて会席、この時落語もあり。おもしろき事也。夜十時帰。

六月廿一日 庚戌 月曜 晴。八十二度。

朝四時起。墓参して帰、祭祀す。課業例の如し。来客、浦四三子。

六月廿二日 辛亥 火曜 晴。 八十二度。
朝五時起。泰、栄、鶴子を拉して墓参して帰。祭祀執行す。課業例の如し。
弘方摘要 岩崎銀行に預ける、金三十円。

六月廿三日 壬子 水曜 晴、夜豪雨。
朝四時半起。祭祀執行して、七時より戸田氏二行、三女教授して帰。課業例の如し。晡時、
五軒町を訪ふ。重威鼻下腫物追々快方ニ赴きぬ。

六月廿四日 癸丑 木曜 晴雨不定。
朝四時半起。鶴子を連れて氷川神社ニ参詣して帰。課業例の如し。来客、岩倉梭子、菊池氏。
寄書、青木衛、堀部鶴子、写真入。寄画、松井奎次郎。
受方摘要 閑院宮様より三十円。

六月廿五日 甲寅 金曜 朝より雨降。
朝五時起。課業例の如し。来客、安斎清兵衛。

六月廿六日 乙卯 土曜 晴陰不定。
朝四時半起。散歩して帰。課業例の如し。桃子、栄子、上野音楽学校之音楽慈善会二行。
入塾、橋本浦女。

六月廿七日 丙辰 日曜 晴。
朝五時起。来客、久米氏。昼飯を饗す。余、桃子、君子と青山御所に参る。浜荻典侍御局
にてゆる／＼御清談申上ル。楊梅典侍、若松典侍、糸桜内侍、白菊内侍、みな／＼御出に
て、此度西京え御隠居仰付られ候ニ付、御暇乞也。白菊内侍御案内にて、御禁苑拝観仰付
られる。洗心亭よりの望も殊の外夏木立して、みはしのあやめも咲出たれと、何となうあ
はれをふくめる心地せられる。かしここのあやめ、萩なそ折て給はる。

さげよ／＼みはしのもとにあやめ艸君天かけりみそなはすらむ
御料理いたゞき、午後七時退出す。

星道女召抱ル、帯地一筋、入塾、小泉国子、すきや一反。
浜荻典侍より唐綾織打着二枚、羽二重二疋。若松典侍より御拝領の御打着、羽二重一疋。
白菊内侍より綾の打着二組。糸桜内侍より羽二重一反。

受方摘要 浜荻さまより五円。若松様より五円。楊梅様より五円。白菊様より五円。

*みはし(御階) *さげよ／＼よ(さげよさげよ) *すきや(透綾) *打着(桂)
*御打着(御桂) *打着(桂)

六月廿八日 丁巳 月曜 晴。

朝四時半起。氷川神社ニ参詣して帰。本日より授業半日間。来客、佐久間元三郎娘入塾願出ル、明治新聞記者、塚田健之介、熊谷細君。
受方摘要 九条家より千疋。

六月廿九日 戊午 火曜 陰。六十二度。

朝四時起。牛天神ニ参詣して帰。課業例の如し。来客、浅田幸子。退校、小林元子。

六月三十日 己未 水曜 陰、午下四時頃より雨。六十二度。

朝四時半起。祭典執行す。午下四時過より氷川神社に参詣して帰。書至、浜荻典侍、白菊内侍。

受方摘要 会計より五円。

払方摘要 雑費、拾三円八十三錢也。

(六月会計、記載ナシ)

(七月)

七月一日 庚申 木曜 雨。六十二度。

朝五時起。祭祀ス。寄書、筑後国柳川城内村大字本城町吉弘鎮安え書画小切ヲ出ス。

七月二日 辛酉 金曜 雨。六十二度。

朝四時半起。祭祀ス。課業例の如し。入塾、佐久間。

岩倉氏より白絹一反。

受方摘要 岩倉梭子、六円。岩倉八千、十二円。

七月三日 壬戌 土曜 晴。

朝四時半起。課業例の如し。十時より、余、桃子と同しく、星の岡茶寮ニ行。万里小路義子殿廿年祭執行に招かれて参拝す。畢而午餐会席之饗応ニ逢ひ、堀田伴子さまも御出にて、ゆるく御咄し共いたし、三時帰。訃音、酒井錫、昨二日午後一時死去。万里義子殿え御備物金五円、兩人より。

受方摘要 三条家、十円。

*御備物(御供物)

七月四日 癸亥 日曜 晴。久々にて八十一度。

朝五時起。揮毫する。

受方摘要 園祥子、三円。藪兼子、三円。

七月五日 甲子 月曜 晴。八十二度。

朝四時起。散歩して帰、祭祀する。課業例の如し。夕景より重威の病を訪ふ。九時帰。愛治郎、夜十時頃より久米氏二行。電報来る故也。久米氏、節子え難題ヲ持掛、愛治郎に兎も角も節子を預ケ、連帰りくれとて聞入さるよし。此夜の惨状言葉にも尽し難し。久米及其母、其姉の薄情、とても人間には非ざるよし也。

受方摘要 三条篤子、五円。

弘方摘要 三菱銀行え金百円。

七月六日 乙丑 火曜 晴。

朝四時半起。祭祀す。課業例の如し。晝至、星信三。此朝、愛治郎ハ夜の明るを待て、節子を浅草え連行て、預ヶ置。

七月七日 丙寅 水曜 雨。

朝四時起。祭祀す。墓参して帰。七時より戸田氏ニ教授して帰。課業例の如し。

七月八日 丁卯 木曜 晴。

朝四時起。牛天神に参詣して帰。課業例の如し。来客、久米民之助、離縁状持参し参る。節子、五軒町え預ける。来客、田村利七。

七月九日 戊辰 金曜

朝四時起。課業例の如し。此日、落合氏、田村氏の縁談申込。久米氏より節子の荷物送り来ル。同荷物ハ七荷なるに、**箆子**三本、長棹一本、是も極古き子供の着替入と取替て、その中には、綿入一枚、袷、単、**すきや**、**浴衣**一枚と、帯一筋、**手箆子**ニハみなからにして、本箱には一本もなし。夜具一組と也。すへて頭の道具ハ一組、極粗末なるのみ也。可驚。
*箆子(箆筒) *すきや(透綾) *浴衣一枚(ママ) *手箆子(手箆筒) *から(空)

七月十日 己巳 土曜

朝五時起。課業例の如し。

受方摘要 吉田鋳子、三円。園祥子、三円。生源寺いさを、三円。平田三枝、三円。樹下定江、三円。

七月十一日 庚午 日曜

田村氏より小紋御召一反、**すきや**二枚、**ちゅみ**ゆかた二反。
受方摘要 片平定、治、五円。今城友、千疋。松平鱗、千疋。
*すきや(透綾) *ちゅみ(縮)

七月十二日 辛未 月曜

朝五時起。課業例の如し。来客、菊池氏、佐野隠居。

酒井恵子より**ふらねる**一反。

受方摘要 斎藤両人、佐野常子、四十円。森政、律、五円。江副両人、五円。

*ふらねる(フラネル)

七月十三日 壬申 火曜 雨。

朝五時起。課業如例。午下、五軒町に行、節子ニ始て逢ふ。その故ハ、節子の心の落付様にして、あまり泣涕をいたさぬ様とての事也。

原氏より御召縮緬一反、**すきや**二反。井深氏より**有松しほり**二反。

受方摘要 松平岳子、三円。

*すきや(透綾) *有松しほり(有松絞)

七月十四日 癸酉 水曜 朝より晴、五時過より俄然雲起り、大雷、驟雨**盆を復す**。八時

頃雨全く霽、月清光。

朝五時起。課業如例。中元之贈り物にて**困雑を究める**。来客、岩浪稲子、牛込孝子、其母、浦太郎、野田操。朝、戸田氏ニ教授して帰。此日より戸田氏ハ休暇をなす。

玉川貞子より、ゆかた地二反。

受方摘要 戸田銚子、一円、五百疋。重威ヨリ五百疋。松平妙子、三円。西村氏、二円。

牛込幸子、二円。

*盆を復す(盆を覆す) *困雑(混雑) *究める(極める)

七月十五日 甲戌 木曜 晴雨不定。八十度。

朝五時起。墓参して帰ル。祭祀執行す。課業例の如し。中元之贈り物、万里小路、裏松、小西、遠藤氏、青木氏、御寺御所、落合、松田氏。御寺御所より**なす**、**いんけん**、唐からし、小包ニて着。

戸田両人より、**すきや**一反。

受方摘要 星野常子、三円。山村豊子、一円。松野とね、五円。戸田両人廿円。徳川両人、廿円。別府静子、壹円。

*なす(茄子) *いんけん(隠元) *すきや(透綾)

七月十六日 乙亥 金曜 晴雨不定。

朝五時起。祭祀執行す。課業例の如し。来客、安田輝子、仁科駒女。遠藤泰治郎、夜十時之汽車にて帰国す。

受方摘要 中村敬子、二円。安田輝子、三円。

七月十七日 丙子 土曜 陰雨不定、夜豪雨。所々出水。

朝五時起。課業例の如し。退校、内藤艶子。入門、宮城女孀大東豊子。

七月十八日 丁丑 日曜 朝ヨリ雨、漸晴、陰晴不定、梅雨の如し。七十九度。

朝五時起。揮毫す。来客、毛利万子、山形菊女。退校、池田幾子。来客、角田栄子。

毛利万子、**すきや**一反。

受方摘要 毛利万子、三円。

*すきや(透綾)

七月十九日 戊寅 月曜 土用入。朝より雨降、已而晴。

朝五時起。課業例の如し。来客、内藤艶子、**藁谷氏**御礼ニ来ル。入塾、高野千代。電報、与謝野寛俄ニ朝鮮に**越く**。

内藤氏より白紹羽織地、繡珍帯地。

*藁(ワラガ) *越く(赴く)

七月二十日 己卯 火曜 朝より細雨、終日陰々たり。

朝五時起。課業例の如し。来客、久米氏より小山、林兩人。余、午下田村氏増子の病ヲ訪ふ。少しく牛乳、**ソツフ**が**たうべ**られるやうに成りたるよし。胃腸病の極つよき性也。帰途、五軒町ニ寄て帰。

*ソツフ(ソツプ) *たうべ(食べ)

七月廿一日 庚辰 水曜 晴、折々細雨。八十六度。

朝五時起。祭祀す。課業例の如し。退校、池田幾子、御礼ニ来ル。書至、辻八千、遠藤氏、唯専寺、松前修広、藤堂高義、長谷川静江。来客、角田氏。小包郵便、御所、平田三枝子え。

受方摘要 池田幾子、十円。

七月廿二日 辛巳 木曜 終陰々如蒸。八十四度。

朝四時起。祭祀す。課業例の如し。退校、河端松枝。書至、徳川良子。来客、成田きく、山根文子。午後六時、地震大に強シ。

*終(終日)

七月廿三日 壬午 金曜 晴。八十度。

朝四時起。祭祀す。課業例の如し。此日を以て授業納めをなす。塾生、帰省する者三分の一。来客、片平常治の母、山本久子、角田氏、重威。退校、山下秀子。受方摘要、森千代子、二円。園頼子、五百疋。

七月廿四日 癸未 土曜 晴。八十六度。

朝四時起。塾生朝より帰省する者、続々として多忙也。

七月廿五日 甲申 日曜 晴、朝霧多し。八十六度。

朝四時起。余、子供等を拉して墓参す。祭祀執行す。泰、石神井村二行。常陸国多賀郡大津町俵積え絹本画を贈ル。来客、美野部俊吉。

*美野部俊吉(美濃部俊吉)

七月廿六日 乙酉 月曜 天晴朗。清暑、朝霧深。八十三度。

朝四時起て、氷川神社に参詣して帰ル。来客、夜、玉枝。書至、原安子、星信三、荻のとせ。

*荻のとせ(荻野とせ)

七月廿七日 丙戌 火曜 朝霧深、晴。

朝四時起。近方逍遙して帰ル。揮毫す。昼過、弘児石神井村より帰ル。書を寄す、原安子、荻のとせ子。

*近方(近傍) *荻のとせ子(荻野とせ子)

七月廿八日 丁亥 水曜 清暑。

朝三時半より起、一同準備いたし、四時出門にて、愛治郎、泰、弘、栄子、鶴子、かよ、長、新一の八人つれにて、六時十分汽船にて房州へ旅行す。来客、川口嘉、松島浜江、重たけ。寄書、京都姉小路良子、近万。(寄書) 及小包物、須磨姉小路様、木津跡見。電信来、午下三時四十分着、ミナブジ。

受方摘要 松島氏より三円。

*重たけ(重威)

七月廿九日 戊子 木曜 晴。午下六時頃より驟雨一洗涼を覚ゆ。朝のうち八十八度。

朝五時起。九時頃より岩倉邸二行、志賀氏ニ、三条邸二行、御後室及新御夫婦ニ御面会申上、大谷新法主ニも久々に御面会、閑談暫時にして去ル。閑院宮様ニ参り、両殿下に拝謁して、御洋館御新築御落成ニ付、方々拝見仰付られる。昼餐を戴て去ル。北白川宮様へ参り、暑中御伺申上て、万里家二行、暫時談話して帰。三時也。井上市兵衛来、一泊ス。

山県孝。夜十時過、地震ス。

房州え出向たる長事、午下三時頃帰ル。昨日汽船中、少シ風有、弘のみ多ひたるよし、外一同安然なるよし、大安心。

三条家よりすきや一反。閑院様より壁すきや一反。

*多ひたる(酔ひたる) *安然(安全) *すきや(透綾) *壁すきや(壁透綾)

七月三十日 己丑 金曜 陰雨不定。七十度。

朝五時起。早々綿入羽織を房州に送ル。井上氏、朝のうち帰浜す。桃子、万里家え行。来客、牛込幸子。

七月三十一日 庚寅 土曜 陰晴不定。七十五度。

朝五時起。祭典する。生徒等清書持参する。書を寄す、房州跡見栄子、大塚陽子、酒巻ちせ、長江満子、平田貞子、加納美保子、石川千枝子、守安房、福島初子。

受方摘要 会計より五円。

払方摘要 雑費、三十九円五十六銭。

(七月会計、記載ナシ)

(八月)

八月一日 辛卯 日曜 先々晴。

朝五時起。墓参して帰る。祭祀ス。来客、岩浪稲子、菊池氏、佐の御隠居。書至、房州愛治郎、藤袴さま、塩原豊、錦織文字。

*佐の御隠居(佐野御隠居)

八月二日 壬辰 月曜 朝雨、已而晴。

朝四時起。祭祀行ふ。入門、落合定子、降原かく子。

八月三日 癸巳 火曜 晴

朝四時起。揮毫する。大掃除、虫掃する。川喜多氏の扇面地二枚遣し候。書至、房州泰より。

八月四日 甲午 水曜 晴。九十四度。風なくて本年の先第一等の暑氣と覚ゆる。

朝四時起。七時より徳川氏ニ教授して帰ル。此日も大掃除する。

受方摘要 三条家より十円。

八月五日 乙未 木曜 朝細雨、已而晴。
朝五時起。大掃除する。午前九時過、地震強。來客、西川富子、今津久子、内田兼、江副米子、静子。
今津より、ゆかた一反。
受方摘要 内田氏、一円。

八月六日 丙申 金曜 晴、折々霧降。
朝五時起。高輪後藤氏二行、弔詞をのへて帰。此時、岩崎弥之助氏二面会する。香儀千疋備える。訃音來、後藤象治郎四日午前八時薨去。來客、牛込幸子。大塚陽子名古やより帰り來ル。
大陽より、ゆかた一反。
払方摘要 大工伊之介見え舞金一円。
*備える(供える) *名古や(名古屋)

八月七日 丁酉 土曜 雨、夜十一時頃より大雷、可驚豪雨。
朝四時前起て、白山神社ニ参詣して帰る。母の明日祭典する。北村、朝五時房州え出立する。寄書、小包共豊岡東雲、中山安子、内田兼子、千家氏、小泉氏、塩原、江馬氏、坂東錫子、中山正子、堀部鶴、林信子、江副米子、広田千代、古屋朝、長尾俊子、田中芳子、酒卷、中村島、小橋富子、桜井、星の常、松のとね、長江満、小西つね。書至、房州鶴子。
*明日(命日) *星の常(星野常) *松のとね(松野とね)

八月八日 戊戌 日曜 雨又晴不定。
朝四時起て、寿子さまの祭典行ふ。八、九時頃より小松宮様え参る。当日ハ、伏見様織君様御祭典にて、御留守さまにて直に下り、田村増子の病氣を訪ひ、暫時話して帰ル。五軒町に寄り、十二時帰ル。書至、山県幸、小松宮関浦。

八月九日 己亥 月曜 晴。
朝四時起。揮毫する。來客、安田輝子、節子、井上泰蔵。北村、房州より帰り來ル。余、四時半より橋場小松宮様え参る。予ての御招きにて、華頂宮郁君様、小松若宮様、清楼様の御客也。此度御新築、川そひの殿造りにて、始め御薄を戴く。この殿の木材たるや、征清の役旅順港の防材にて、すべて御たてになりたる、京間八疊及六疊の御間也。風通しよく、夏なきすゝしさ也。御晚餐をいたゞき、只々清談にて、九時過る頃退出する。
*御たて(御建て)

八月十日 庚子 火曜 晴。

朝五時起。この朝一番汽船で、僕長を房州へ迎ひにたゞせる。茶席**大払除**。来客、古屋朝子。寄画、清水信夫え。このゆふへの月清くすゞしくて、露台にのほりて、両国川關のう**ちあけ花火**など見つゝ、九時過たれば寐に就く。

*大払除(大掃除) *すゞしく(涼しく) *うちあけ花火(打上げ花火)

八月十一日 辛丑 水曜 晴。八十四度。

朝四時半起る。掃除**まふし**付て、揮毫する。書至、長谷川千賀子、松田いま子、堀部鶴子。寄書、右三家え。小包、徳川氏、中村敬子え。午後二時半、愛治郎一行無事房州より帰着。

*まふし(申し)

八月十二日 壬寅 木曜 晴。八十四度、熱甚、夜不眠、汗流出る。

朝四時半起る。来客、原安子、青木玉子。朝十時頃来る。玉子**縁段**齊ひたる二付、御礼御暇乞也。夕六時過帰る。若松典侍使来。

受方摘要 原氏より百円。

*縁段(縁談)

八月十三日 癸卯 金曜 晴。九十度。

朝五時起る。朝より熱甚。青山御所青松様え書及小包出ス。

八月十四日 甲辰 土曜 熱甚。

朝**五時**起。稽古日にて生徒清書持参る。余、泰、栄、鷺田を連て、六時廿分の汽車にて横浜二着。五時出門。この時より雷鳴、汽車行中雷鳴厳し。雨又豪雨、横浜着の時、雨漸細也。原安子、玉子迎ニ来り、用意の車にて直に三の谷二行。九時晚餐済、夜大雨。青木玉子、角野氏結婚の約齊ひたる二付、その祝として**壁すきや**一反、松魚を贈る。

払方摘要 汽車賃、沓田四十銭。

***五(ママ)**時 *壁すきや(壁透綾)

八月十五日 乙巳 日曜 晴、夜細雨、已而晴。

朝起。八時頃より一同船にて本牧十二天祭礼を見る。本牧村人の群集如蟻、鏡海楼上、人の山をなし、山車を引出し、やかて船四艘ニ、白の筒袖に紅のはち巻紐、はだかに黄のはち巻と二手に、沖中迄船を出し、夫より艫をふり返して競漕す。実に見事成もの也。昼過帰。この時富太郎来ル。夜雨少し降、十時頃月出。寄書、宅え。

払方摘要 原氏別荘下婢等え四円。

八月十六日 丙午 月曜 朝陰、已而晴。涼気爽快。

朝六時起。林中運動す。午下四時より海水ニ遊浴す。廿分位にして帰り、浴す。

八月十七日 丁未 火曜 晴。

朝五時起。松林中逍遙して帰る。干汐にてあさり貝拾ふ。おもしろし。五升位を得る。海辺の遊び快闊也。

八月十八日 戊申 水曜 晴。

朝五時半起る。この朝、重威、もゝ子来る。石井初子も来ル。重威、夜の汽車にて帰京す。

八月十九日 己酉 木曜

朝五時半起る。大鵝箋紙に風荷と松樹ニ富士之図二枚、揮毫する。

*大鵝箋紙(大画仙牋)

八月二十日 庚戌 金曜 晴。

朝五時起。朝飯前に若林来る。来客、古屋朝子、塩原豊子、琴の法師二人及其の娘も来。長うた及琴うた等にて、終日おもしろし。このうち海水にも浴す。夕かた客人皆々帰る。

弘方摘要 琴の法師え三円五十銭。

八月廿一日 辛亥 土曜 晴、深更月清し。

朝五時起。林中逍遙して帰ル。若林、朝帰東する。朝、海水に浴す。

八月廿二日 壬子 日曜 晴雨不定。

朝五時起。園林中逍遙して、海水ニ入り、暫時にして帰ル。皆々いまた寐眠中也。富太郎子も朝より来り、終日合作、絹本二幅揮毫する。晡時より廿番館二行、晚餐を饗せらる。九時半帰る。この途路、雨ニ逢ふ。

八月廿三日 癸丑 月曜 晴。 両陛下還幸。

朝五時起。帰り準備して八時出門。横浜停車場え四十分二着、四十五分の汽車ニ乗込、送りの人々に誥別して、十時四十分新橋着。幸に迎ひの者来り居り、都合よく帰着す。実は十時二十分の汽車のはつ也。石山基遂子も西京より無事帰着。

受方摘要 斎藤三人より十円。

弘方摘要 下婢僕八人え壹円六十銭。

*はつ(筈)

八月廿四日 甲寅 火曜 晴。

朝五時起て、七時廿分出門、新橋ニ至る。藤袴さま八時の御着の趣なるに、九時四十分御着にて、御機嫌よき御様子伺、御迎ひ申上て、余等ハ五軒町え行。午下、夕景迄遊ひて帰

る。

弘方摘要 石山氏え土産、二円。

八月廿五日 乙卯 水曜 晴。

朝五時起。生徒の清書蝟集して、遠来の分廿五通郵便にて出し、多忙也。

八月廿六日 丙辰 木曜 晴。八十六度。

朝五時起る。遠藤氏、美濃より帰り来ル。

八月廿七日 丁巳 金曜 陰。むし暑し。

朝五時起る。朝飯後、田村氏を訪ふ。増子病勢つよく、大ゐに心配致され、暫時枕辺にて咄して帰る。それより五軒町を訪ひ、節子と同道して帰る。書至、徳川氏。来客、江副米子、一泊。

八月廿八日 戊午 土曜 陰、雨、雷鳴。

朝五時起て、太田社え参詣して帰る。清書日にて生徒続々来。午下一時より宮城ニ参り、藤袴様御対面にて、久々京都の咄し共伺、四時退去する。それより九条家ニ参る。本年御誕生の晴子さま、急性脳膜炎にて御かくれ遊し候ニ付、御弔詞申上る。大く御いたましき事也。夕景帰る。香資五百疋を備える。

*かくれ(隠れ) *備える(供える)

八月廿九日 己未 日曜 陰雨不定。

朝五時起て、雨中丸山辺道遙して帰る。宗家故善性院殿七回忌ニ付、香資料金二円を備える。書を寄す、伊香保滞在徳川富子。此夕、五軒町より招ニ来り、行て帰。

*備える(供える)

八月三十日 庚申 月曜 晴、夜雨。八十六度。

朝五時起。栄子を拉して太田神社ニ詣て帰。来客、治、節子。書至、石山基威、始テ米国より郵書着、本月七日無恙桑港着。

八月三十一日 辛酉 火曜 朝雨、已にして晴、熱甚無風。八十六度。

朝五時起。愛治郎、三千連て大宮に行、一泊す。来客、安田輝子。二十十日、無難。

受方摘要 会計より五円。

弘方摘要 五円四十五(錢)、封筒千枚、代金貳円廿錢。

(八月会計、記載ナシ)

(九月)

九月一日 壬戌 水曜 晴。むし熱し。八十八度。
朝四時起。墓参して帰、祭典執行ス。入塾、諏訪姉妹。保証人太田正隆。愛治郎、三千、
昼過帰来。

九月二日 癸亥 木曜 晴。
朝五時起。祭典す。来客、石山秀子、橋本宗治郎。帰塾、小泉為子。入塾、横堀照子。
橋本氏より山繭織一反。

九月三日 甲子 金曜 晴、熱甚、風有。
朝五時起ル。訃音来、藤尾禄郎母死去。右二付、洋蠟十二束を供す。帰塾、万里小路君子。
小泉氏より博多織半巾帯一筋。

九月四日 乙丑 土曜 晴。
朝五時起ル。帰塾、今城友子、中島安寿。来客、中島博行、仁科駒、田島氏。
中島氏より浴衣二度。

受方摘要 浜谷悦子、五円。
弘方摘要 陽子え六、七、八、九、四ヶ月分、四円。
*二度(二反)

九月五日 丙寅 日曜 昨夜より雨。頓涼。七十五度。
朝五時起。祭典を行ふ。来客、落合直文。帰校、木村徳子、市島藤の、大森秀、三条夏、
末子、松のとね、森永時江、大橋幸子、酒巻千せ、田口両人、西川富子、片平常、治、塩
原夏、橋本浦、山崎修、森律、政。入門、松平妙、大蔵公栄。
市島氏より白風通織箱入。

受方摘要 三条治子様より三円。
*松のとね(松野とね)

九月六日 丁卯 月曜 終日雨、夜又豪雨。六十九度。
朝五時、祭典を行ふ。開校式、授業始。入門、三尾勇子。生徒会者八十六人。来客、渡辺
氏、落合氏、中島氏。此度和学教授に中島氏を聘ス。節子来、一宿。
横浜原氏より、繻珍帯地、紹帯地、博多夏帯。

九月七日 戊辰 火曜 朝より雨、午下止、夜月清し。久々の空にて珍らしく。七十二度。
朝五時起。母の祭典を行ふ。課業例の如し。
受方摘要 別府静子、一円。

九月八日 己巳 水曜 朝より豪雨不止、夜九時頃より雷鳴甚し。終夜可驚豪雨。
朝五時起。寿子殿の祭祀を行ふ。来客、万里小路通房、森永琴。入門、恩田金子。小西寿子三回忌二付、金五百疋香資を贈ル。

九月九日 庚午 木曜 晴。八十三度。夜月清し。

朝三時頃より大暴風雨となり、余等昨夜より一眠もなさず、夜明たれば職人等も見舞二来り、園中の樹木たをれんとするを、大勢にてきりたをし、あるはらちを結て、予防に余念なく、その風のすさまじさ人をもたをす計也。出水甚しく、表ハ門軸より内え入り、運動場より茶席迄水進入して、余等始めてこの様な出水ハ見たる也。一面の海也。通学生ハ中浜一人来ル。水に落て大騒ぎ也。

寄書、閑院宮、田村氏え。

*らち(埒)

九月十日 辛未 金曜 晴。

朝五時起。氷川神社祭礼二付、御輿及踊屋台来ル。課業例の如し。夜月清光。畢月て、余、桃子と氷川神社ニ参詣して帰。入塾、畑野蝶子。来客、五島善子。

受方摘要 五島氏より七円五十銭。

*畢月て(弄月て)

九月十一日 壬申 土曜 晴、十五夜、月鏡の如し。

朝五時起。不計、脊ルウマチ起り臥蓐す。此日もいまた踊屋台など来ル。入塾、小安豊子。

九月十二日 癸酉 日曜 晴、夜清し。

この日も臥蓐す。

九月十三日 甲戌 月曜 晴又雨。八十六度。

臥蓐す。来客、森永辰江此度養生之縁段齊ひたる二付、母琴と御礼ニ来ル。大塚陽女この朝箱根え出立す。

森永辰江よりおめし一反。

受方摘要 森永辰江、千疋。永江満子、三円。

払方摘要 陽女え餞別、五円。

*養生(養女) *縁段(縁談) *おめし(御召)

九月十四日 乙亥 火曜 終日雨。
臥蓐す。来客、堀田伴子。

受方摘要 堀田氏より五百疋。上野とせ、三円。

九月十五日 丙子 水曜 終日雨。

此日も朝より雨にて臥蓐す。井上久可子、退校御礼ニ来ル。
受方摘要 井上久可より拾五円。

九月十六日 丁丑 木曜 終日雨。

終日臥蓐。入塾、林種子。

九月十七日 戊寅 金曜 終日雨、夜強雨。此朝、脱走人中島市二郎、暇乞して帰国ス。

朝五時起。床払して課業ニ就く。訃音、立花邦子夫人、久々病氣之処養生不叶、十四日午前十時柳河表ニ付御死去。午下五時より江副氏の宴会ニ付、愛治郎、栄子、紅葉館ニ行。余、桃子ハ不参也。この朝、大坂王子之人、中島一治之書状持参す。過日来脱走人ハ全く疑名にて、松本千太郎なるよし。尤市二郎とハ従弟也。浅草辺をしらへ、つれ帰るよしにて去ル。

*付(而) *疑名(偽名)

九月十八日 己卯 土曜 朝雨、已而晴。

朝五時起。課業例の如し。富山氏目見ニ来ル。立花氏え香料金二円ヲ備えル。弔詞を贈ル。
*備えル(供えル)

九月十九日 庚辰 日曜 晴。七十三度。

朝五時起。揮毫す。来客、美濃部俊吉。午下、挙家五軒町ニ行て遊ぶ。夜九時帰。余、始めて歩行す。

塩野捨、菊より白七子二反。

九月二十日 辛巳 月曜 晴、午下雨、夜大雨。六十八度。

朝五時起。課業如例。来客、三条家使俣野稻次郎、家庭雜誌主筆金子春夢。召抱、富山氏。解雇、新場定、縁段相齊ニ付御暇願出ル。
伊藤定子より花色絹二反。

*縁段(縁談)

九月廿一日 壬午 火曜 朝大雨、午下四時頃より晴。

朝五時起。先君の祭典執行す。課業例の如し。此日夕、三州より三宅中江女来ル。

九月廿二日 癸未 水曜 晴。

朝五時起。課業例の如し。祖先及千久子祭典執行す。午下墓参して帰。五軒町夫婦と山形菊も来り、生徒一同えすもしを出す。神前にて晚餐を饗す。夜十時済。退校、正木浜子。

九月廿三日 甲申 木曜 陰。

朝六時起。休日。秋季皇霊祭。帰塾、千家信子。電信、濃州遠藤節今朝死去。寄書、木戸精蔵、富田良三郎。

九月廿四日 乙酉 金曜 雨。

朝五時起。課業例の如し。午前十一時過より、余、桃子同道にて、新橋停車場二行。青山御所女官御退散にて、京都へ御出発二付、御見立申上ル。さなきたにかなしきに、雨さへふりていと、涙にうちしめりぬ。十二時三十分、汽車にて御と、こほりなく御立に成りぬ。御見立の人々にて大く雑沓、御賑々敷事也。退校、林種子。

*さなきたに(然なきだに)

九月廿五日 丙戌 土曜 朝雨、午下晴。七十二度。

朝五時起。課業例の如し。池田栄亮え弔詞及香奠二円、美濃遠藤茂え香奠三円。

九月廿六日 丁亥 日曜 晴。六十九度。

朝五時起。来客、三条家能勢氏来、菊池、諏訪氏細君、広田千代子、武子。退校、三条篤子。

受方摘要 三条篤子、十五円。

払方摘要 五軒町え四円五十銭。

九月廿七日 戊子 月曜 雨。

朝五時起。課業例の如し。

九月廿八日 己丑 火曜 雨。

朝五時起。課業例の如し。退校、正木浜子、津田文子。

九月廿九日 庚寅 水曜 終日雨、夜豪雨、二時頃より暴風吹すさみぬ。

朝五時起。課業例の如し。退校、通学生荒井千の。余、脳あしくて平臥す。書至、徳川良子、岩くら梭子。

*岩くら梭子(岩倉梭子)

九月三十日 辛卯 木曜 朝晴また雨。

朝五時起。昨夜の大暴風雨にて表裏共水にひたし、しかるに通学生ハよくなれて皆々車にのりて出校いたし候。課業例の如し。寄書、徳川良子、岩倉梭子。

受方摘要 会計より金五円。

払方摘要 雑費、十三円四十五銭。

(九月会計、記載ナシ)

(十月)

十月一日 壬辰 金曜 晴、夜月清し。

朝五時起。墓参して帰る。この途路、伝通の山の下ハすへて水にひたし、やう／＼の事にて往て帰り候。祭典執行して、課業例の如し。弘、石神井より帰る。書至、毛利万子、山県幸子、戸田米子。訃音、新野文資去ル二十三日死去。

十月二日 癸巳 土曜 晴。

朝五時起。祭典、課業例の如し。寄書、毛利万子、戸田米子、山県孝、吉田秀毅、新野亮太郎。香奠、宮原え金千疋、新野え壺円。弘の誕生日にて祝ひを行ふ。昼、祝膳済て、二時過より弘児帰村する。午下、重威も来り。菊、駒の老女来り、夜も大／＼賑はひぬ。書至、閑院宮様みきより。大塚陽子、箱ねより帰る。来客、中浜糸子の母、江馬静子の母。

*箱ね(箱根)

十月三日 甲午 日曜 晴。

朝五時起。課業例の如し。来客、羽野知頭の妻、娘灼子を連れて来ル。寄書、閑院宮様奥え。入塾、羽野灼子、中浜糸子。

十月四日 乙未 月曜 晴。

朝五時起。課業例の如し。過ル廿九日の暴風雨にて、美濃、尾張の洪水、その惨状いふへからず。いたましき哉。

十月五日 丙申 火曜 朝より終日雨ふる。

朝五時起。課業例の如し。書至、佐野新子。原善二郎氏より地永院三回忌志葉子及二斤入茶罐来る。十日忌辰也。

十月六日 丁酉 水曜 朝より雨ふりしきる。
朝四時起。祭祀す。課業例の如し。絹本揮毫にかゝる。桃子、万里家え見舞二行。書至、堀田伴子。寄書、同家え。閑院宮御稽古。
弘方摘要 万里家御見舞、五円。

十月七日 戊戌 木曜 晴陰不定。岩倉稽古日。
朝四時起。母の祭典を行ふ。課業例の如し。午下、戸田氏、岩倉氏二行、稽古を始む。桃子、万里家二行。

十月八日 己亥 金曜 豪雨。

朝四時起。寿子命祭祀を行ふ。課業例の如し。朝より雨ふりしきりて、表裏共また水にひたし、川の如し。通学生等ハ車にて送り出したる有さま也。当年ハ是にて三度の水ひたし也。書至、在朝鮮与謝野氏より。

十月九日 庚子 土曜 晴朗。

朝四時起。課業例の如し。午下、徳川家ニ御稽古始をなす。畢而万里家ニ八重子病をとふ。病苦追々と増して、衰弱も甚し。只々涙のみ也。已而帰。寄書、朝鮮与謝野氏。横浜原氏え地永院三年忌ニ付、金五円香資を備えル。

*備えル(供えル)

十月十日 辛丑 日曜 晴朗、十五夜、月如鏡。

朝五時起。妹菊野のまつりを行ふ。来客、羽野氏、重威。帰塾、高鹿信子、小室銀子。

十月十一日 壬寅 月曜

朝五時起。墓参して帰る。課業例の如し。

十月十二日 癸卯 火曜 終日雨ふる。

朝五時起。課業例の如し。

十月十三日 甲辰 水曜 朝雨、十時頃より晴出しぬ。七十八度。

朝五時起。課業例の如し。午下、閑院宮様に参り、御息所の御稽古まふし上て、途中、万里家ニ病をとふ。八重子よほと衰弱にて、見るも哀におもほゆ。日暮、家に帰りぬ。御寺の御所より松茸、くり一籠着。

*まふし上て(申し上て)

十月十四日 乙巳 木曜 晴朗。

朝五時起。課業例の如し。午下、戸田氏に稽古して、それより岩倉家ニ稽古すませて、帰途、田村氏に病をとふて帰る。入塾、梅沢八重子。来客、石橋君子。

十月十五日 丙午 金曜 晴朗。

朝五時起。父の祭祀を行ふ。栄子、新場の祭りに行く。桃子、万里家ニ行。御寺御所え書を寄す。

十月十六日 丁未 土曜 晴朗。

朝五時起。課業例の如し。訃音、園頼子今晚三時危篤。直ニ園家ニ行て弔詞を伸ふ。御一統愁傷限りなし。暫時にして涙なからに去る。約有、姉小路家ニテ例年之通り鎌足公祭典御執行ニ付参拝す。愛治郎、鶴子も来ル。良子様よりハ豊女来ル。夜七時過、家ニ帰ル。

十月十七日 戊申 日曜 神嘗祭。晴。

朝五時起。祖父の祭祀を行ふ。園頼子え金五百疋香資を備ふ。書至、福島安田千代子より。来客、錦織文子。栄子、新場より帰宅する。京都若松典侍さまより松茸到来。

玉川貞子よりきやら子、小紋二反。

*備ふ(供ふ) *きやら子(キヤラコ)

十月十八日 己酉 月曜 晴。

朝五時半起。課業例の如し。桃子誕生日にて、重威、山片菊も来り、先々その祝事いたし、夜十時皆帰る。退校、中島梅子、同、日置ふい。

十月十九日 庚戌 火曜 晴。

朝五時半起。課業例の如し。斎藤千賀子、松の常子帰塾する。来客、斎藤善子、宮子。藤袴様より、さもし五尾。安田千代子より梨子着。書至、糸桜内侍さま、白菊内侍さまより。西斎藤常子より糸織一反。

*松の常子(松野常子) *さもし(さもし)

十月二十日 辛亥 水曜 晴。午下二時過地震。

朝五時起。近方運動して帰。課業例如し。午下、戸田氏ニ教授して、閑院宮御殿え参り、御教授申上て去る。書を寄す、京都糸桜様、白菊さまえ。

*近方(近傍) *課業例如し(課業例の如し)

十月廿一日 壬子 木曜 晴。

朝五時起。祭典を行ふ。午下、岩倉氏ニ教授して、帰途五軒町ニ行。秋季祭典ニ付参拝す。退校、杉浦孝、江馬静子。

受方摘要 杉浦氏、十円。

払方摘要 御備え一円。

*御備え(御供え)

十月廿二日 癸丑 金曜 晴。

朝五時起。墓参して帰。千久子命祭祀を行ふ。入塾、中神静、茂。美濃青木氏より松茸一籠着。書を寄す、青木氏、森永時江、安田千代。桃子、此日より万里家詰切。

十月廿三日 甲寅 土曜 終日雨降通し。

朝より脳あしく、休業す。来客、新野初子。

十月廿四日 乙卯 日曜 晴。

朝五時起。病全快。揮毫す。美濃青木氏より新酒糟一箱着。書至、小松宮関浦、志賀重昂。昨廿三日午下九時、男子生産。寄書、福島安田氏。

払方摘要 子供のかたかけ、一円六十銭。

*かたかけ(肩掛)

十月廿五日 丙辰 月曜 晴。

朝五時起。課業例の如し。書を寄す、小松宮御奥え。電報着、大坂星氏より、桂双あし、早く帰レ。三千、直ニ行装して出立す。

十月廿六日 丁巳 火曜 晴。

朝五時起。課業例の如し。書至、門野たま、北白川宮吉野。寄書、門野玉子え。内藤艶子え菓子を贈ル。松に鶴の画渡す。

払方摘要 万里小路直房見舞、金二円。

十月廿七日 戊午 水曜 閑院宮様御断。

朝五時起。近方運動して帰る。課業例の如し。午下、五軒町を訪ふ。幾子帯の祝ニ付、繻珍帯を祝ふ。それより小松宮殿下葵町え御移転ニ付、恐悦ニ参る。それより志賀氏生産の祝ひニ産衣を贈る。此度ハ男子ニて、殊ニ大丈夫、玉の如し。暫時にして三条家ニ行、入夜而帰。

*近方(近傍)

十月廿八日 己未 木曜 晴。

朝五時起。散歩して帰。来客、桜井宗子、門野玉子。同、長松菅子、米倉山子。

十月廿九日 庚申 金曜 晴。

朝五時起。散歩して帰。課業例の如し。午下、戸田氏ニ教授して、岩倉邸ニ行、教授して、夫より北白川宮御殿ニ参り、御神前参拝す。御夕餐を戴て帰。来客、斎藤善子。

十月三十日 辛酉 土曜 晴。

朝五時起。課業例の如し。来客、桜井直藏宗子此度病氣ニ付、退校願出ル、斎藤善子。星の常子え文及菓子一折見舞ニ出す。星信三え弔詞を出す。

受方摘要 斎藤善子、五円。桜井宗子、廿円。

*星の常子(星野常子)

(十月三十一日、記載ナシ)

(十月會計、記載ナシ)

(十一月)

十一月一日 癸亥 月曜 晴。

休日。朝五時起。祭典執行す。朝来客、尾越操、清子、秋子三人、入塾す。五軒町治子、幾子来。午下三時より、余、愛治郎、節子と同道にて、五軒町ニ行、幾子帯の祝ニ付宴席を催さる。十人余りの客にて賑々敷、九時帰。

十一月二日 甲子 火曜 晴、夜月清し。

休業。朝六時起。祭祀す。余、美術協会ニ行、出品の画を観る。凡二時間ニ(衍)して出る。谷中三崎町明円寺ニ園頼子の墓ニ参る。この日、天晴朗にして、団子坂の人山の如し。さけて外道より帰ル。来客、横浜渡辺玉子、増子。桃子帰宅、一宿す。

渡辺氏より花色絹一反。

*凡二時間ニ(衍) *明円寺(妙円寺)

十一月三日 乙丑 水曜 晴、夜月清し。

朝五時起。天長節ニ付、祭典す。午前九時頃、横浜より来客、青木久衛、原富太郎夫婦、善一郎、門野夫婦、十人之来客にて、暫時にして愛治郎、栄子も同道にて東京見物せられる。来客、臼井氏老母、毛利式子。桃子、万里家ニ行。

青木久衛より白縮緬一疋。原氏より友仙縮緬一疋。

*友仙縮緬(友禅縮緬)

十一月四日 丙寅 木曜 晴。
朝五時起。課業例の如し。

十一月五日 丁卯 金曜
朝六時起。課業例の如し。夕景より脳あしくしてふす。
*ふす(臥す)

十一月六日 戊辰 土曜
余、脳あしくて臥摩す。大坂星三千え荷物四箇汽車便にしてさし出ス。

十一月七日 己巳 日曜 陰。
余、脳病氣にて平臥す。桃子、万里家より帰ル。

十一月八日 庚午 月曜 晴。
朝六時起。課業例の如し。午下二時より歌合之式執行す。落合氏講師、青戸波江氏読師。
生徒一同、左右両側に坐す。名所紅葉、兼題。賞誉を受けるもの十四人也。五時相済。
九日、桃子万里家二行。五軒町紅葉見二行。夜九時帰。

十一月九日 辛未 火曜 晴。
朝六時起。課業例の如し。午下、山本安治郎氏を訪ふ。暫時にして閑院宮様御稽古申上ル。
六時帰宅。夜、井深氏え月見二行て帰。重威と同道也。桃子、万里家より帰来る。十日之部也。
津田やえ支那縮緬黒紋附及下着と仕立二遣す。

十一月十日 壬申 水曜 晴。
朝六時起。氷川神社ニ参詣して帰る。課業例の如し。来客、内藤艶子。寄書、大坂星氏え。
十一日之部也。
受方摘要 内藤氏潤筆、十円。

(十一月十一日、記載ナシ)

十一月十二日 甲戌 金曜 晴。
朝五時起。課業例の如し。午下、戸田氏ニ教授して、それより田村増子の病を訪テ、岩倉氏二行、教授して、帰途、玉枝を訪ふて帰。書至、原安子、十四日招待也。来客、佐野隠居。渡辺増子、此度大谷氏え縁談相齊候二付、其祝として七子一反、松魚一折を贈ル、北村静使す。書至、御寺御所ヨリ。

十一月十三日 乙亥 土曜
朝五時起。課業例の如し。寄書、原安子え、出港断也。

(十一月十四日〜廿九日、記載ナシ)

十一月三十日 壬辰 火曜
弘方摘要 鷺田氏え二円。大塚氏え二円。同、二ヶ月分十、十一、二円。

(十一月会計、記載ナシ)

(十二月)

(十二月一日〜九日、記載ナシ)

十二月十日 壬寅 金曜
花瀾、斎藤松野。花峽、岩倉梭子。花翠、井上久可。花年、伊藤定子。花文、山内節子。
花真、三村松子。花畦、遠田濟子。命号者七人。

十二月十一日 癸卯 土曜
田村氏より小紋御召一反、白七子一反、襦珍帯地、帶上ケ二筋。

十二月十二日 甲辰 日曜
渡辺増子より緋縮緬一反。
受方摘要 閑院宮様より、金三拾円。田辺幸七より、金貳円。

十二月十三日 乙巳 月曜
受方摘要 斎藤松の、伊藤定、山内節、三村松、金貳拾円。
弘方摘要 愛治郎えカス、八十五円也。

十二月十四日 丙午 火曜
朝、散歩して帰。来客、浦雪子、早苗、田鶴子、久々ニて相遅に昔しを語り合ひて、名残も尽きぬに、十八日出立のよしにて誥別す。
浦雪子より緋精巧帛紗地縫模様一枚、早苗子より繻珍裏地。
受方摘要 遠田濟子、六円。

*相遅(相互) *緋精功(緋精好)

十二月十五日 丁未 水曜 晴。

朝六時起。墓参して帰。父の祭典執行す。石井初子、桃井氏と十二日結婚相齊ひたるに付、其祝として松魚一折、友仙縮緬一反を贈る。来客、朝鮮学校長早川清範。

戸田氏、白縮緬一反。

受方摘要 井上久可子、五円。戸田氏、五円。

弘方摘要 紋織一反、七円五十銭。

*友仙縮緬(友禅縮緬)

(十二月十六日、記載ナシ)

十二月十七日 己酉 金曜

受方摘要 生源寺いさを、三円。樹下定江、三円。大東豊子、三円。吉田銚子、三円。藪兼子、三円。平田三枝、三円。

十二月十八日 庚戌 土曜

来客、降旗元太郎今子退校ニ付、御礼ニ来ル、橋本吉兵衛、閑院宮幹。午下四時頃より五軒町忘年会ニ行、十時帰。

降旗氏、米沢一反。閑院宮より小紋御めし一反。

十二月十九日 辛亥 日曜

来客、諏訪氏。

十二月二十日 壬子 月曜

朝六時起。散歩して帰。午下、田村増子之病を問て帰。

岩倉氏より、紋羽二重一反。

受方摘要 岩倉梭子、五円。同八千子、五円。梭子より千疋。同、老円五十銭。

十二月廿一日 癸丑 火曜

朝六時起。勅題新年雪、生徒詠進之たて詠草書上ル。夕景より五軒町訪テ帰。酒井恵子より白奉書つむき一反。

受方摘要 上杉氏、一円。西村喜三郎、二円。松尾とね、五円。

弘方摘要 北村氏え十円。

*たて(堅) *つむき(紬)

十二月廿二日 甲寅 水曜

朝六時起。墓参帰り祭典執行ふ。此日、授業納めをなす。来客、徳川氏よりそま、増田鹿。石井初子より紋羽二重一反。

受方摘要 斎藤三人より三拾円。同、七円五十銭。同、三円。戸田銈子、五百疋。徳川氏、廿円。

弘方摘要 宇都宮氏え二円。

十二月廿三日 乙卯 木曜 晴。

朝六時起。散歩して帰、祭祀ス。塾生続々帰省ス。石山政子と縁談相齊ひ、廿九日結婚治定す。

原氏より小紋織御召一反、糸織一反、友仙二反。

受方摘要 片平定江、五円。森政、律、五円。今城友、千疋。松平妙、三円。山村豊、一円。

*友仙(友禅)

十二月廿四日 丙辰 金曜 晴。

朝七時起。散歩して帰。此日、余十二号塾ニ引移ル。

受方摘要 森千代、二円。園祥子、三円。内田兼、一円。

十二月廿五日 丁巳 土曜 晴。

朝六時起。散歩して帰。退校、田口安。同、三宅中江。掃除相済。

田口安子より花色ちゝぶ一反。

受方摘要 松平鱗、千疋。

*花色ちゝぶ(花色秩父)

十二月廿六日 戊午 日曜 晴、風。

朝六時起。白山神社ニ参詣して帰。小包郵便ニて贈り物す。美濃遠藤氏、青山久衛、木津唯専寺、願泉寺、美の尾忠兵衛、天下茶屋寺田氏、辻八千、須磨姉小路様え。来客、上田はつ。

受方摘要 三条家より十円。中村敬、二円。九条家、千疋。

*青山久衛(青木久衛)

十二月廿七日 己未 月曜 晴、風。

朝七時起。散歩して帰。来客、諏訪愛子其父と、三村松子。石山政子え結納を贈ル。寄書、姉小路伯、万里伯、原富太郎。

(十二月廿八日〜三十一日、記載ナシ)

(十二月会計、記載ナシ)